

令和6年6月16日

コミュニティ・スクール便り

板橋区立緑小学校 コミュニティ・スクール委員長 山田 貴之
校長 市之瀬 輝明



日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。6月12日（水）に、第2回コミュニティ・スクール委員会を行いました。今回は学校支援地域本部コーディネーターと教職員も参加し、「学校教育と地域との連携」について、熟議を行いました。板橋区教育委員会地域教育力推進課地域連携係の小野 様、深野 様にもお越しいただきました。

熟議

1グループ5～6名で、5グループに分かれ、「えんたくん」（直径90cmの円形ダンボールの上に円形の用紙を乗せて、意見を書き込みます。）を利用して、ワールドカフェで、地域にお願いしたいことと、各グループのテーマについて話し合いました。次に、iCS委員とコーディネーター、ホスト役の教職員を残し、他の教職員は他のグループに移動して、新たなメンバーで話し合いました。そして、全員がはじめのグループに戻り、意見を共有しました。最後に全体の場で、グループの報告をしました。

○自然や人とのふれあいを大切にするために

- ・豊かな自然を生かし、単元と合わせて「フラワーウォーク」ができそう。
- ・学習において、「こんな手伝いをしてほしい。」と気軽に声を掛けてほしい。
- ・環境に興味をもつきっかけを作りたい。保護者も参加できるとよい。
- ・昨年度、第2ピオトープも作ったが、地域としても目的を知って、手伝いたい。



○教職員の働き方改革のために

- ・卒業生の人材活用が考えられる。様々な分野で活躍している。身近な地域の方との交流を学習に生かしてほしい。
- ・地域も学校の力になりたい。でもどうしてよいのか分からない。学校から気軽に声を掛けてほしい。
- ・教員では難しい板橋・地域の話は、地域ができること。ぜひかかわりたい。



○給食の残菜減らす・生かすために

- 豆ご飯の残菜はキムチチャーハンの残菜の2倍で、和食は余る傾向。学校では季節のご飯を出したり、おかわりを教員が配ったり工夫をしている。家庭でも様々なごはんを食べてほしい。
- 生活科で野菜を育てる経験を、「食べたい」につなげていきたい。
- 調理中に出た野菜くずを活用した「ミミズコンポスト」を行っている。継続・拡大予定。

○子どもたちの姿勢や挨拶の改善のために

- 姿勢が崩れてきている。体力や筋力の不足も原因か。月1回実施している、学級で長縄にチャレンジする「なわの日」も継続していきたい。団結や競争心にもつなげたい。
- 挨拶は、大人がお手本を示したい。自分から、誰にでもできるようにしたい。
- 学校では、朝、校門にて「あいさつ当番」の取組を行っている。継続していきたい。

○子どもたちの居場所・相談場所作りのために

- 緑小のまわりには子どもたちの遊び場・居場所が多い。子どもたちの居場所は、「心の居場所」であり、学校、家庭、地域に必要である。心の居場所となれるためにも、大人に余裕が必要。教職員に余裕をつくるにはどうしたらよいのか。場所・人・物等の環境の整備が必要である。
- あいキッズや地域との連携が大事である。日常での地域の見守りや声掛けがありがたい。皆で子どもたちを育てていきたい。



iCS 委員とコーディネーター、教職員が熟議することで、お互いの願いや考えを知りました。共通していることは、「子どもたちのために」よりよいことを取り組みたいということでした。教職員だけでは気付けない新たな視点を見付けることもでき、有意義な時間となりました。

※ 次回は11月16日（土）13：00～を予定しています。